

道徳指導案

平成26年1月4日(土) 5学年 農村改善センター 提案者 小林晃男

授業の視点

児童一人一人の感じたことや考えたことをみんなで発表、共有し、仲間分けの活動を通して価値を追求する一連の活動を位置づけることは、一人一人の児童が主体的にねらいとする道徳的価値を理解する上で有効であったか。

1. 主題名 規則の意義 内容項目4-(1)〈資料名「ほのぼのテスト」一部改作〉

2. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

本主題は、「公德心をもって法や決まりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。」という高学年4-(1)の内容項目に焦点を当て、法や決まりの意義を理解し、守って行動しようとする意欲の向上を目指して行うものである。

道徳的価値の捉えについて

法や決まりは、集団生活をする人が「より安心して安全に生活できる」ことを視点に、そこで生活する人々の諸々の権利を保障することを前提に社会全体の合意の上で決められたものである。そのため、そこで生活する人々には、自他の権利を保障できる行動を取ることを、すなわち法や決まりを遵守することが求められている。しかし、ややもすると、「守ること」や「義務を果たすこと」が前面に出て、人々の安全や安心等を保障するために合意した決まりであることや、その決まりを果たす義務が誰にもあるということを忘れがちである。

すなわち、みんな(社会的な弱者)の権利を保障するため一人一人が決まりを守る必要があり、規則を守ることが自分の権利も守ることにつながっている、ということが道徳的価値の核である。そして、決まりが自他の諸々のことを守ることになると理解することにより、決まりを守ろうとする意欲、及び責任感が一層育まれると考えている。

そこで、児童達に、決まりが何のためにあるのかを改めて理解させると共に、守って行動しようとする意欲を育みたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態(男子○名、女子○名、計○名)

ア 学校の全教育活動で推進してきている本内容項目に関わる実態

学校生活には様々な決まり(マナー)がある。全校朝会などでも折に触れて登下校時の安全確保のために決まりを守ることやマナーを励行すること等の指導がある。また、4年生になって化学薬品を扱う理科の実験に向けてのルール・マナーの指導を受けて実験を行ってきた。

多くの児童は言われたように素直に決まりを守って生活を送っている。しかし、多くの場合「叱られるから」「親や先生に言われたから」が本音である。確かに口では「みんなのために決まりがある」「安全のために決まりがある」とは言っても、みんな及び、一人一人の安全や安心、快適性を保障する権利と結びつけて語れる児童はいない。つまり、決まりがあることの意義や守ることのよさ、意味まで捉え切れておらず不十分である。

したがって、本時においては、規則の意義についての理解を深める学びにする。

イ 本内容項目に関わる実態

児童達は、両親や先生から決まりを守るよう話された経験を持ち、決まりを守らなければいけないことを知っている。実際の学校生活の中でも「廊下を走らない」「トイレのサンダルを揃える」「不必要な物は持ってこない」等の決まりやマナーを守り、落ち着いて生活している。しかし、しばらく経つと廊下を走る児童や不要なものを持ってくる児童が増えてくる。全体としては、みんなのた

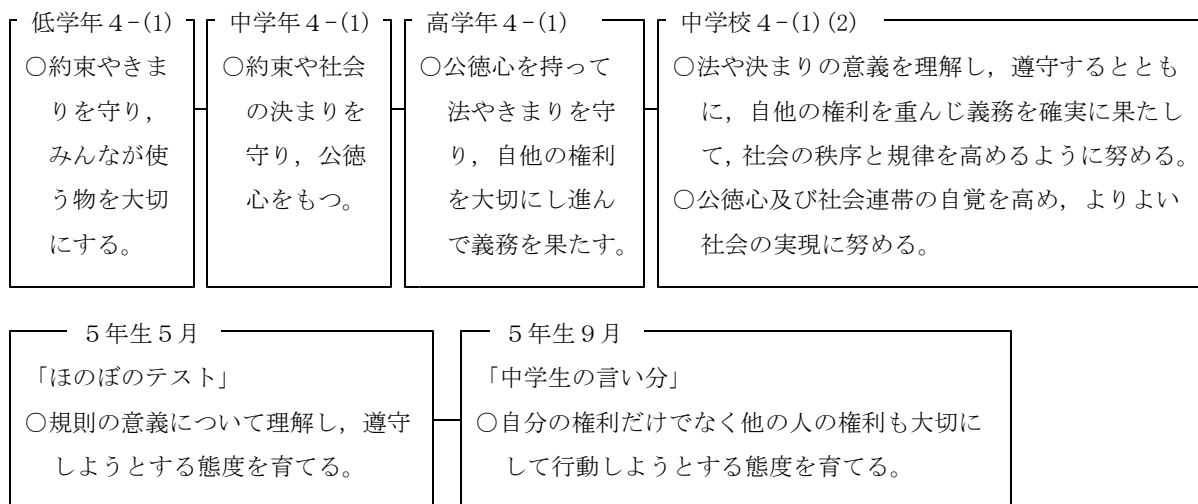
めに決まりがあることを理解し、規則を守って行動することができるようになってきてはいるが、一部の児童に気の緩みが出始めると、守れなくなってくる児童が増えていく。

児童達には注意が必要な場面においてその都度、何のために決まりがあるのかを問い掛けてきているため、口では「みんなの安全のために決まりがあるので守らなければいけない」とどの児童も答えてくる。しかし、リーダー的な立場の児童でさえも友達や下級生への注意が、「走らないで」「持って来ちゃいけないんだよ」等の決まりとして使われている言葉を表面的に繰り返すだけになってしまうことが多く、みんな、及び一人一人の安全や安心、快適性を保障する権利と結びつけて語れる児童は少ない。

つまり、児童達の規則に対する意識はまだまだ表面的な理解であり、「親や先生に言われたから守っている」や、「しかられるから、守っている」等のレベルであり、決まりがあることの意義や守ることのよさまでは実感されないと云える。

そこで、規則の尊重に関わる内容項目の内、決まりやマナーが誰のためにあるのかを改めて捉える（深化）と共に、日頃の生活の中で言われ続けてきた経験を基にして守ることのよさを理解させたい（統合）と考え、本主題を設定した。

(3) 内容項目の系統



(4) 資料について

草津町から伊香保経由の前橋県庁行きの特急バスに、おじいさんが路線バスと思い込んで乗車した。途中で気付いたおじいさんは、特急バスは止まらないはずの停留所「泉沢口」で降ろしてほしいと車掌に願う。しかし、このバス会社では、他のお客に迷惑がかかることや、その後の運行に差し支えることなどから決められた停留所以外でお客を乗り降りさせることを禁止していた。

困った車掌は運転士と相談して会社の決まりの一つである「ブレーキテストをする」という理由でバスを止め、その間におじいさんを降ろす。他のお客もブレーキテストによりおじいさんを降ろしたことに気付いたがバスの中はほのぼのとした空気につつまれた。という内容である。

今回の資料は、多くの副読本で扱われている「ほのぼのテスト」を、以下のように改作したものである。

- 児童達の生活に合わせてなじみのある地名にした。
- ねらいに迫る上で関係の薄い部分を削除した。
- 途中で降ろせない理由を具体的に記述した。
- おじいさんが途中で降りたい理由を具体的に記述した。

これらの改作により、児童達は登場人物の置かれている立場を具体的に捉え、自分の経験から決

まりの意義について考えをもてるようになると考えている。

3. 指導方針

<事前>

- ・学校生活の決まりやマナーに対するクラスや学校全体の実態について意識を向けられるよう、給食や帰りの会などで話題にし、まじめに取り組んでいる児童を紹介する。
- ・決まりやマナーを守れていなかった児童に、その都度注意を促す。
- ・資料に具体的な記述を加えることにより、児童達が具体的な場面から判断して規則がある意義を捉えられるようにする。

<本時>

- ①内容項目4-(1)の道徳的価値の意味及び、価値と自己との関わりをこれまでの学校の諸活動で考える機会が少なかった児童に、じっくりと考え深めることのできる学びにするために、時間と場所を保障する。
- ②経験や意識の異なる児童が同じ土俵からねらいとなる道徳的価値を追求することができるよう、読み物資料「ほのぼのテスト」(一部改作)を用いる。
- ③児童一人一人が主体的に取り組む学びにするために、学習過程は課題解決的な学習過程とする。
- ④児童一人一人が主体的に価値を追求し、学び取る価値を互いに納得し合える学びにするために、学習課題「車内はどうしてほのぼのとした空気につつまれたのでしょうか」を提示する。
- ⑤児童一人一人が主体的に学習課題を追求し、道徳的価値を自覚して、道徳的実践力を児童自ら育むことができるよう、課題解決的な学習過程に次のような順による活動・手立てを位置づける。
 - ア、児童一人一人が学びの方向を捉え、解決できるまで課題を意識できるよう、学習課題を提示し、音読させる。
 - イ、児童一人一人が主体的に学習課題を追求し、これからの学びの拠り所及び、学ぶ意欲の源となる自分なりの考えをもてるよう、個別に課題「車内がどうしてほのぼのしたのか」を考え、判断し、ワークシートに記述する時間と場を保障する。
 - ウ、児童一人一人が主体的に学習課題解決・価値への見方を広め、自己理解、他者理解を進め、道徳的価値の理解を深めることができるよう、みんなで学び合う活動を設定する。
この活動では、児童一人一人の主体的な学び、課題意識を持続させて、価値理解を深めていく。そのために、次のような手立てを前後させ合いながら位置づける。
- (7)児童一人一人をみんなの中で埋もれ隠れさせず、学びに取り組もうとする意識を持続させると共に、その意識の強化に向けて児童個々の求めてきた考え・立場を全体に明らかにさせるために、発表内容と児童個々の考えを挙手等につなげる。
- (4)多様な感じ方や考え方の差異を、道徳的、論理的な知的作用を活かして明確化すると共に、みんなで納得し合いながら、価値理解に迫る踏み台となる共通点をまとめることができるよう、仲間分けをみんなで進めさせる。
- (9)友達の考えや資料の登場人物の行動・考えなどを鏡として、自分の考えが分かる、友達の考えが分かる等から、自己理解、他者理解、人間理解へと結びつけるために、発表内容を比べる、自分の考えをつなげる、仲間分けするの一連の活動に取り組ませる。
- (5)児童一人一人が自分の求めてきた考えを基に、学びの対象を納得して進めることができるよう時間と学びの場を保障する。
- エ、児童一人一人に主体的な学びに取り組ませる中で、道徳的・論理的な知的作用を促し、本時のねらいを学び取らせる・道徳的価値を理解させる・道徳的実践力を育成させるために、決まりのもつ価値、決まりの意義を捉えさせる活動、続いて、その意義に鏡の役割を担わせて、本

時のねらいを学び取らせる活動を位置づける。

(7) 決まりのもつ価値、決まりの意義を捉えさせる活動。

- ・児童個々の感じ方や考え方を基にして、決まりの価値、決まりの意義を捉えさせることに向けての道徳的・論理的な知的作用を促すために「車内はどうしてほのぼのとした空気に包まれたのでしょうか」と問いかけ、提示する。
- ・児童の発言やつぶやきを児童の納得を得ながら整理し「決まりはみんなのためにあり、一人一人が決まりを守る行動を取る責任がある」を提示し、確認させる。
- ・確認したことをワークシートに書かせる。

(4) 本時のねらいを学ぶ取る。

○本時のねらいを学び取らせ、道徳的価値を自覚させ、道徳的実践力を児童自らに育ませるために、次のような活動に取り組みせる。

- ・自分を見つめ、自分の生き方を考えさせるために、決まりの意義を鏡として、決まりと結びつけた自分の生き方を考えさせ、ワークシートに書かせる。
- ・友達の決まりに対する考えを知ること、他者理解・人間理解及び、自分を改めて見つめ直し、決まりを守って生活しようとする意欲を育むために、隣の友達の書いた文を交換させて小さな声で音読するよう促す。
- ・友達の影響から生き方を見直したい児童には、改めて直したり書き加えたりするよう促す。

⑥本時のまとめをさせる。

児童自身がまとめた自分の生き方を得心させ、決まりを守って生活しようとする意志を固くするために、書いた生き方を静かに音読させて、本時のまとめとする。

ここまでの学習を経ていることと本時のねらいの内容を鏡にして、自分を見つめる、自分の生き方を考えさせることで④～⑤の学習を主体的に取り組んできている児童一人一人は、自ら道徳的実践力を育むことができる。

そのために、学び取った本時のねらいの内容（バスに乗っている全員の安全・安心を確認することは、バスに乗っている一人一人がみんなの安全を保障する行動をしなければならぬから）を基・鏡にして、自分の生き方を見つめさせ、自分の生き方を考えさせて、それをワークシートに表現させる。そして、自分の記述内容を静かに音読させて、自分自身を見つめさせ、決まりを守って生活しようとする意欲を育むことへと繋げる。

4. 本時の学習

(1) ねらい

「車内はどうしてほのぼのとした空気につまれたのでしょうか」の課題に対する児童個々の感じ方や考え方を発表し、みんなで仲間分けしながら交流する活動を通して、決まりの意義を捉え、規則を守って生活しようとする意欲を育む。

(2) 準備

読み物資料（「ほのぼのテスト」を一部改作したもの）、場面絵、発表用カード、表現カード

(3) 展 開

	学習活動と児童の意識	分	指導上の留意点及び支援
導入	1 資料を読み、内容を捉える。 ・おじいさんを降ろしてあげるなんて、優しくていい話だね。	↑ 5 分 *	○範読後、各自で音読するよう促すと共に、場面絵を用いながら登場人物の発言や行動を問い掛け、話のあらすじを捉えられるようにする。
	2 課題に対する個々の感じ方や考え方をもち。 ・バスの中は、みんながいい気持ちになっているんだね。		○「ほのぼの」の意味を問い掛けながら、車内がほのぼのとした雰囲気になっていることに目を向けられるようにする。
展開 (個別追求)	課題：車内はどうしてほのぼのとした空気に包まれたのでしょうか		
	ア: 運転手さんと車掌さんが、おじいさんを降ろしてあげたから。 イ: 乗客みんなの願いがかなっておじいさんを降ろせたから。 ウ: 乗客全員の安全を守りながらおじいさんも降ろすことができた。	8 分	○課題を提示すると共に表現カードを配布し、自分なりの感じ方や考え方を記述するよう促す。その際には、考える時間を伝えることにより、より集中し、意欲的に取り組めるようにする。 ○一つだけでなく複数記述してもよいことを伝え、自分の考えを十分表現できるようにする。 ○考えを記述するのにとまどっている児童には「心が温かくなってるような温まるいい雰囲気になっているのは誰だろうか」等の助言を必要に応じて行う。
展開 (集団追求)	3 個々の感じ方や考え方を発表し、話し合う活動を通してねらいとする価値を学び取る。 ＜反対＞ ・規則を破ってるから100%ほのぼのした気持ちにはなれないのではないか。 ＜納得＞ ・ア,イ,ウ: 運転士と車掌がおじいさんのことを一番に考えられたからほのぼのした。 ・イ: 乗客の全員がおじいさんを降ろすことに賛成し、時間は余分にかかるけど、みんなが納得しているからほのぼのした。 ・ウ: みんなの安全を守りながら(＝規則を守りながら)乗客の気持ちとおじいさんのことを大切にできたからほのぼのした。 ＜仲間分け活動＞ ・(おじいさんも乗客だから)ア～ウは、どれも乗客への思い	17 分	○以下のような仲間分け活動に取り組ませることにより、ねらいとする価値を学び取らせる。 ○自分なりの感じ方や考え方を発表するよう促す。そして、発表内容について質問の有無を確認したり補足したりして、聞いている児童が発表された感じ方や考え方を捉えられるようにする。 ○自分の感じ方や考え方がまだ板書されていない児童に発表を促す。更に、自分の感じ方や考え方と同じものに挙手を求め、全員が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ○多様な感じ方や考え方についての理由や、納得するところ及び、反対の意見を伝え合うよう促す。そして、児童の発言を基に「誰の」「どんな思い」からきているものかを書き加えたり、線を引いて強調したりして多様な感じ方や考え方のよさを児童全員が捉えられるようにする。 ○児童が自分たちの考えをつなぎながら、主体的に話し合いを進めることができるよう、ハンドサインや表情、つぶやき等を基に必要なに応じて補足や助言等を行う。 ○児童の様子からみんなが納得しているかどうかをみとり、必要に応じて反対の意見を述べるよう促し、全員が納得しながら話し合いを進められるよう

	<p>を大切にしたこと満足しているのだと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イとりは、その中でも規則を守りながら、おじいさんを降ろせたことに喜びを感じているということだよ。 ・確かに、規則を破ることになると思いながらもすぐに降ろしていたら、乗客の中には文句を言う人がいたかもしれないよね。 ・規則を守ったのは、いつもお客さんのことを考えている運転士さんと車掌さんだけかと思っただけど、乗客の一人一人も「ブレーキテスト」に進んで参加したのか。 ・そうだよ、だからほのぼのしたんだよ。 		<p>にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○納得していない児童が見られた場合には、納得できる発言を他の児童に求め、児童同士の言葉で考えを伝え合えるようにすることで、より納得した状態まで高められるようにする。 ○納得している考えを板書することにより、児童が多様な感じ方や考え方を比較しながら共通点（どれも乗客のことを大切にしている）を捉えられるようにする。 ○運転士と車掌が悩まずにすぐ降ろした場合、車内の雰囲気はほのぼのとしないことを確認すると共に、二人の行動のよさを問い掛け、「規則をどうにか守ろうとした」からこそ、ほのぼのとした雰囲気が生まれたことを捉えられるようにする。 ○これまでの話合いで、規則について納得したことを発言するよう促し、「規則はおじいさんのような人のためにあり、一人一人が進んで参加してみんなで守っていくことが大切」を板書し、ねらいとする価値を学び取れるようにする。
<p>展開 (自己との関わり・生き方を考える)</p>	<p>4 学び取った価値を自己との関わりで考える。</p> <p><自分を見つめる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほのぼのテスト」では、みんながそれぞれの立場で、規則を守っていたな。全員が守って初めて、みんなの安全を守れるのか。確かに…。 <p><自分の生き方を考える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は守ってはいったけど、いつもみんなが守れなくちゃだめだな。もっとみんなにもしっかり注意していきたいな。 	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「運転手と車掌」は規則を直接実行する立場（言ってくれる人）であり、乗客はその規則を受けて積極的に参加しようとする立場（守る行動で、責任を果たせる人）であったことを確認する。このことによって、学校生活の中での自分の立場と行動を具体的に振り返れるようにする。 ○自分だけが守っていてもみんなの安全は保障されないことを確認し、低学年が悪い部分をまねしていないか、自分の行動が手本となっているかを振り返れるようにする。 ○上記2つの確認後、表現カードに「規則が誰のためにあるのか」と自分の振り返りを書くよう促す。そして、これから心がけたいことを記述するよう促し、自分の生き方を整理できるようにする。
	<p>5 本時のねらいを学び取る・道徳的实践力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕も低学年の子に積極的に声を掛けたり、お手本になったりするぞ。 	<p>3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「これから心がけたいこと」を隣の友達と読み合い、一言感想を伝え合うよう促し、自分の取り組みに自信をもったり、気づけなかった新たな場面を付け加えたりして、より実践への意欲を高められるようにする。
<p>終末</p>	<p>6 本時で学んだことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則のことをしっかり考えて、やることが分かったら、なんだか心が温かくなってきたよ。 	<p>2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○表現カードに記述した、「規則は誰のためにあるのか」と「これから心がけたいこと」をもう一度音読するよう促し、本時の学びを実感できるようにする。